

UA神奈川学習センター あきだより

2002/10/1 発行

第5巻第4号(通巻20号)

目次:

特集

ふるさと 2

詩歌 3

書評 4

学生団体・サークル
のお知らせ 5

放送大学神奈川学習センター

〒232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

<http://u-air.net/kanagawa/>

E-Mail:social@u-air.ac.jp



甘い誘惑

[イラスト:坂戸五葉]

特集： ふるさと

私のふるさと

野末 富美子

川崎市に暮らして4年になりますが、以前は名古屋市に住んでいました。

けれど、「ふるさと」と問われて思い出すのは、以前住んでいた場所ではなく、祖母の兄の家の風景です。当時、たばこ農家をしており、土間を挟んで母屋の反対側に仕事場があり、今で言うロフトに乾燥させた葉を積み上げ出荷の時間を待っていました。はしごを登るのは恐かったのですが、収穫時期でなければ広いロフトは格好な遊び場でした。家の裏には小さな川があり、土手を歩いていて牛の散歩に遭遇し、逃げ帰った事もあり

ました。また、裏山を歩いていてへびを跨いだこともありました。その付近には、マムシが生息していたそうですから、恐い物知らずの行動です。

今では、その里山は切り崩され、道ができ、家が建ち並び、川はコンクリートで覆われ、昔の姿はありません。

そして、もう一つ、昔の知り合いが住んでいた村の風景です。

今では人口も増え町になりましたが当時は金魚の養殖が盛んな小さな村でした。村を流れる川には、和金がいて、たも網とバケツを持って金魚すくいに出かけてい

ました。おたまじゃくしやドジョウもいて、うちの水槽はいつもにぎやかでした。あぜ道に牛ガエルがいて、恐くて通れず遠回りもしました。当時の川辺はいろいろな動物との出会いの場でした。

まるで童謡「ふるさと」に出てくる風景のようですが、どちらの場所も自然が今より身近に感じる事が出来たと思います。

ふるさとは、住んでいた場所に関係なく、強く印象に残っていて懐かしいと思える場所なのだと感じます。

心の中のふるさと

木村 勝紀

東京は神田の松枝町。昭和15年3月12日に8人兄弟の7番目として生まれる。父は厳しく、母は限りなく優しい人だった。父は、獣医師から商人に転じた変わり者。使用人を数人使う程度に成功していたという。

昭和16年12月8日。「我が帝国海軍は、太平洋上において米英両国と戦闘状態に入れり・・・」と放送が流れたと聞く。私は、1歳数ヶ月で郊外の東京都杉並区に引越した。両親が戦争に備えて手当てした大きな家だった。東京上空に米軍機が飛来するようになる。両親の出身地、福井県の田舎（菅谷村）に疎開する。母親と学童疎開中を連れ戻された四男、五男、そして就学前の六男と七男（私）、弟の八男の6人。父親だけ杉並の家に残る。長男は軍医で、次男は陸軍に、三男は海軍の予科練に応召中という時代だ。

福井は大空襲に会い、雨あられと降る爆弾の下、ふとんを頭から被り、田んぼの畦道を逃げ惑った。途中でぐれ、たった一人でさまよい歩いたことも記憶に新しい。母は、随分と心配したらしい。戦後、平和が戻った家では、兄達の学童疎開中のひもじい話と

共に、このことが良く話題にされた。

昭和20年8月。終戦を迎えて、即座に、父と復員直後の三男が迎えに来た。三男は、特攻隊に志願中に終戦を迎えた猛者だった人だ。後に、予科練時代の勇ましい話を、この兄は熱っぽく語った。弟たちは、目を輝かせて聞き入ったものだ。超満員の夜行列車で東京に向かう車内で、弁当替わりのさとうきびの茎をかじった甘い記憶が妙に思い出される。

貧困ながらも平穏な日々を過ごしていた或る日、郵便屋さんが来た。一通のはがきに目を通すや否や、母親が突然号泣を始めた。ただならぬ様子に何か重大なことが起こったとは察したが、何故？とは聞かなかった。聞けなかった。ソ連に抑留されていた次男の戦病死を伝える公報だったのだ。私が一年生の時、弟の八郎が用水池に嵌って水死した。家に戻った我が子の亡骸を、冷たかろうと一晩中抱いて寝た母。私もとても悲しかった。強烈な虚無感、無常観に苛まれた。

杉並区沓掛町では小学校3年の途中まで過ごした後、豊島区椎名町に引っ越した。戦争で財産を失った当家は、唯一残った家財を売り払って小さな家に移り住み、生活費を捻出したらしい。私が6年生で、またまた荒川区日暮里に引っ越した。夢よ、もう一度と、繊維問屋街の一角に店を構えるために。

父は、大家族を抱えての長年の重責に肝臓を患い、61歳で他界した。話をするのも憚れるほど厳しかった人だが、家族を大きな愛情で包んでいてくれたことを疑ったことはなかった。母は昭和59年、終生優しい人柄のまま、81歳で安らかに永眠した。いい思い出ばかりの両親であった。

ふるさとを書くつもりだったが、両親や兄弟の思い出になてしまった。私のふるさは、心の中にあって、両親と一緒に生きた激動の時代だったようだ。

故郷について

— 追憶と幻想は不離である —

片野 克己

特集：
ふるさと

語り得ぬものについては、沈黙しなければならぬ L. ヴィトゲンシュタイン

ふるさと

故郷は川の思い出である。夏の太陽が中天にあり、僕たちは泳ぎに泳いだ。水の匂いは甘やかで、清らかな抒情すら湛えていた。僕はその川の奏でる幻想にも似た音楽にいつしか魅せられていた。だが、それは川と一体になること、泳がずにはいられぬ、という渴望を伴っていた。泳いでいた。ひたすら泳いでいたかった——。

故郷は同時に雪の思い出である。雪はほとんど降らないところであるが（豪雪地帯ほどには降らない。ひと冬に1メートルほどだろうか）、降り積った雪は子供にとってたまらなくよいものなのだ。近くのこんもりとした丘のようなところでの橇遊びだ。

橇に乗りひたすら滑る。その度に雪を顔に受け、時に鼻や口に雪が吹

き込み息ができぬほどであった。その驚き、その発見が新しい遊びを生んでいく。そんな少年の日々が僕にはあった。滑りに滑る。滑るための——。

何よりも、故郷はかくれんぼの思い出である。故郷といえはかくれんぼ。かくれんぼに明暮れる日々。遊び相手は小さな従弟妹たちであった。しかし、小さくとも行動力と創造力、想像力に秀でていたのか、年長の僕たち（僕と弟）と対等以上に遊んでいたように思う。

かくれんぼはすればするほど巧妙に隠れることができる。ある年のある日、この日もかくれんぼをしていたのだが、一番年少の女の子がいくら捜しても見つからない。

「どこだ、どこだ」

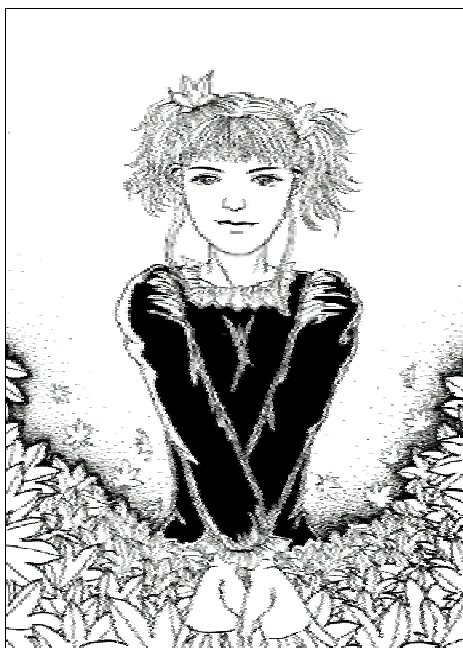
鬼に見つけられた連中も一緒になって捜すが、見つからない——（埒があかない）。

「降参!! チカ、出てきてもいいよ。」

鬼も僕らも驚いた。彼女は祖母の寝所のダンボール箱に入っていた（隠れていたのではない）。^{□□□□}。それもまったく普通にさり気なくそこにあるという風情の、ダンボール箱に——。

創造力と想像力では一枚も二枚も僕たちより上手であったろうか。そんな彼女も大人になった（かくいう僕も大人になってしまった）。時の移り変わりの早さに驚くことは容易いかもしれない。しかし、同じ体験をし、共にくらしした瞬間に彼らはいたのだ。その追憶の中の彼らを想うとき、時の見事なまでの酷さを感じることもあるのも事実である。

「遠くにありておもふもの」とはよく言われることだが、僕にはそれが空間的な隔りを越えた、時間的な空隙をも備えた言葉と思える。時の^{□□}もた^{□□}らす^{□□}遠さ^{□□}——。その遠くで「おもふこと」は、僕がここにいることの証であるのだろうか。



悲歌 ——— 2002年 晩夏
J. プロツキーに

みどりもり すえめ
翠森 末芽

とど

止まったままの不在は
物影にこそあるのか——音のする方向
へと刻まれてゆく体温の下に
彼方は不思議にも屈折して
恋人たちの燃える幻想を映し出してゆく
翳した風韻を下支えて（すべては音楽に）
移ろいの調べは降り積る ただ
（黙祷の間合いに聞こえる全音階）
冷めた認識さえ暗所に携えて
私は秋を迎えにゆくであろう
緩やかに華やきが夢散する
大気の中 散華する光たちよ
古い謡を纏って進み出るのが
雨音は待合室にある——「誰そ彼」の微笑——
現在の不思議に続いていた
風が私の瞳を貫いて（湿った光を見る）
悲しみの夏は終わりを告げた

書評・読後感想文

『進化経済学のすすめ:「知識」から経済現象を読む』江頭進著
(講談社現代新書、2002年)

『ドロシーおぼさんの大事なことに気づく』ドロシー・ロー・ノルト、
加藤諦三著(扶桑社、2002年)

『グレース・ケリー—プリンセスの素顔』ジェームズ・スパダ著、
仙名紀訳(朝日新聞社、1989年)

榎 満信

私たちが日ごろ物事を能率よく進めることができるのは、制度(世界認識の枠組み)に則っているお陰である。著者はこの本において、知識——それは制度によって規定される——の蓄えを社会もしくは組織の中でどう伝えてゆけばよいかについて論じている。

この問題を考えるにあたって気を付けねばならないのは、生物界では後天的に得たものはその代限りのものであるのに対して社会においては経験を後代に伝え得ること、そして、淘汰という現象は単にある時期の環境変化に対して中立的でなかったことを意味するだけであって優劣の基準を差し出すものではないことである。

この本にはいくつかの政策的命題も含まれている。中でも、大学がベンチャーに手を出すという・このごろよく聞く話は間違ったやり方であると唱えられている点は興味ぶかい。

松永 靖子

先日夫が会社帰りに買ってきた本をふと開いて読んでみると、なかなかおもしろかった。

そこには、ドロシーさんの「Discovery happens when you are what you say you are. (自分に正直になったとき、大事なことに気づく)」というような具合の詩が数行あり、次に加藤諦三さんのその詩毎の文章がある。私は拝聴したことがないが、加藤諦三さんはラジオで人生相談をなさっているそうで、そのせいか厳しいお言葉も多く自分自身反省させられることも多かった。そして、数々の貴重なお話も大変為になった。

現代社会は、時間の流れがとても速いと言われている。私もそう思う。結果ばかりでなく、もっと過程を大事にして楽しむ余裕をもつことができれば、大事なことに気づくことも、もっと容易になるのではないかと思った。

木崎 治恵

米国人、ジェームズ・スパダ氏著の「グレース・ケリー」を読んだ。この溜め息が出る程美しい女性は、実は常に悲劇を背負い、生涯翻弄され続ける。

グレースは、家族の愛を受けずに育った。父はスカル選手(ボート競技)の兄にばかり注目し、グレースは放っておかれた。彼女は、母、姉、妹からも疎外された。家族に、特に父に認められたい一心で、グレースは女優を目指す。

幸い、その美しさが買われ、絶賛される女優に登り詰めた、しかしそれでも、父は冷やかだった。グレースが女優として絶頂だった頃、モナコ国王レーニエから求婚された。一説によると、求婚を受けたのも父に認められたいためだったという。女優として評価してくれないのなら、君主の妻となれば一。

しかし、王妃となった後、彼女はアメリカでの女優生活を懐かしがるようになる。ハリウッドからの出演依頼も王妃という立場から断らざるを得なかった。レーニエは、モナコの政治も執っていた。政治的な危機が迫ると妻に当たり散らした。そして二人の王女は、母に反抗し、遊び呆けた。

1982年、グレース王妃は、交通事故を起こし亡くなる。

グレースは、父に認められたい一心で、女優となり、王妃となり、そして亡くなった。最後まで父から離れられなかった。

少し彼女が救われたとするならば、レーニエはグレースの死を周りが驚く程悲しんだことだ。墮落した二人の王女は更正された。グレース王妃はこれで天国へ行けたであろう。



書評・読后感想文

『小倉遊亀「天地の恵みを生きる」
百四歳の介護日誌』小倉寛子著
(文化出版局、1999年)

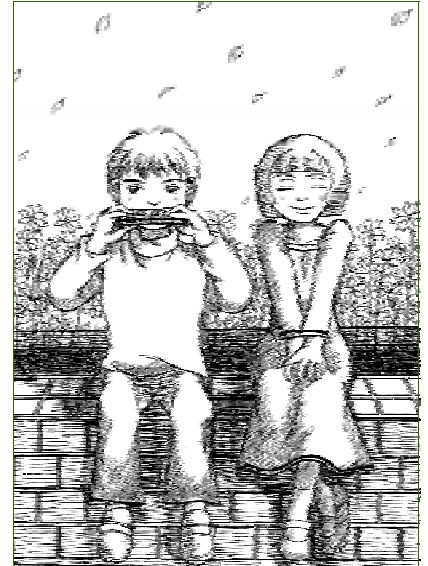
渡邊 繁子

小倉遊亀の真摯な生き方に真理を求めて強く生きる命を感じ、自然に引き付けられたのでした。当時実母の在宅介護にも慣れ、母との会話も楽しいものでした。時折手を合わせ、おがむ様子を通して畏敬の想いを深くしたのでした。

明治生まれの母の気質の精神性をもっと知りたいと同時に、百歳までは生きてもらいたいと思っていました。母は永遠に死んだりほしくないと思い込んでいました。母は九十歳を越えていましたが、末子として私は、自由な人生の時間を持てた三十年あまりを常に身近に感じておりました。母の存在の全てが、私の隅々に至るまでしっかり焼きつけられていました。

「何も持たぬという人でも天地の恩は頂いている」という言葉の中にも、単に芸術上の悩みにとどまらず、人としていかに生きてゆくのか真剣に人生と向き合う者の考えが表れています。かならずや対峙せねばならないような哲学的で根源的な悩みをかかえることは大切であり、その中から孤独を払拭したいという渴望と葛藤の繰り返しの生き方が人生です。この世に生享けたなら、このことを希求せざるをえないということにも強い感銘を得たのです。

深遠な真理から「ありがとう」という感謝の言葉が発せられるのだと、どれほどの勇気を勝ちえたかを、一周忌をむかえ運命の流れを静かに想い起こしています。



学生団体・サークルのお知らせ

中国語学習会

中国語で、日常会話ぐらいできたらいいな。

中国語を学ぶことで、もっと中国文化に触れることが出来るのではないかしら？

そんな単純な思いから出発したサークル『中国語学習会』です。

それぞれに忙しい仲間が何とか時間のやりくりをし、ニイ、ハオ！と集まっています。

会員同士の親睦を図りながら、放送と面接授業だけの学生生活では得られない何かをみんなで見つけれられるといいですね。

学習会日程

初級（放送教材中国語Ⅰ）

第二土曜 ・ 第四土曜

中級（会話を中心に）

第一日曜 ・ 第三日曜

それぞれ、10:00～12:00 まで、

お二人の中国の先生から学んでいます。
毎月の日程表が、入り口正面掲示板に掲示されます。ご都合の良い日に是非一度見学にお越し下さい。会員一同心からお待ちしています。

Tel 090-1818-2115 堀籠

うえるかむKanagawa

『うえるかむKanagawa』は神奈川学習センターに所属する学生のための英会話サークルです。活動は月に2回で、午前中はテーマを決めて自由に英語で話しをするフリートーキングの時間、午後はラジオの英会話講座“レッツ スピーク（初級程度）”をテキストに、みんなで楽しく英会話を勉強しています。午前と午後の両方に参加しても結構ですし、どちらか一方でも構いません。英会話に興味のある方、チョット私達のサークルを覗いてみませんか。また、とりあえず見学してみたいという方も、どうぞ気軽においで下さい。例会は下記の通りです。

毎月第2・第4水曜日
フリートーキング

AM11:00～12:15

午後の勉強会

PM13:00～15:00

また、『うえるかむKanagawa』の母体である『うえるかむ』の行事を年に4～5回行っています。休日だけ、また1年に1度しか出席できない人達も集まり、全体の活動を通して親睦を深めています。今までにタイ、台湾、イギリスのオープンユニバーシティとの交流を実現し、オーストラリアでのホームスティも楽しみました。皆さんも仲間になりませんか。

＊サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

野末：044-287-0270

成川：045-781-5167

(成川 記)

放送大学テニスクラブ Together

Togetherは神奈川学習センターに所属する学生のテニスクラブです。現在、部員は30名位で、大学構内横のテニスコートでボールを追いかけて食らい付きつつ、奇声(!?)すら発している姿を見かけることでしょう。「大学に来るといつもテニスをしている人達がいる・・・」そう思われるほどテニスの好きな人達の集まりです。また、公営コート(三ツ沢、山手公園)でも月2回程度練習会を行っています。

わたしたち同様、テニスの好きな方の参加はもちろんのこと、これからテニスを始めよう、と考えている方の参加もお待ちしております。

活動内容

1.主に学習センター隣のコートと公営テニスコートで練習会を実施しています。(土・日で月に4日程度)

2.他クラブ(学習センター)との交流も行っております。

3.テニス合宿も9月から10月に2泊3日で行う予定です。

以上のような活動を行っておりますが、より充実した部にするため上記以外の活動や考慮中のものもあります。

入部を希望される方は下記連絡先まで。

連絡先

伊藤啓司 045-825-4643

加納菊千代 070-5574-3915

米澤功喜 090-5512-2781

片野克巳 045-825-3566

メール宛先: together@yd6.so-net.ne.jp

詳しくは、[ホームページ](http://www004.upp.so-net.ne.jp/Together/index.htm)をご覧ください。

<http://www004.upp.so-net.ne.jp/Together/index.htm>



人間学研究会

【公開講演会】12月14日開催!

天川晃先生放送大学教授就任記念
「占領期の日本関係文書」

—米国国立公文書館を中心に—
13:45開場 14:00開演
神奈川学習センターにて

【例会】

○10月19日(土)「原子力利用は、是か? 非か?」

○11月17日(日)「原罪って何?」

○12月14日(土)(公開講演会)例会終了後、忘年会をします。

○1月12日(日)「謡曲を聴く」

○2月8日(土)「一年間修士課程に学んでの体験談」(見学不可)

○3月16日(日)総会(見学不可)

例会は、午後1時00分から神奈川学習センターの講義室にて行います。卒業研究の発表、ワークショップ、講演会などの内容です。10月、11月、1月の例会は、見学ができます。12月は、公開講演会を開きます。みなさまお誘い合わせの上、ご参加ください。2月、3月は、見学不可です。入会者のみ参加できます。(日程は、変更される場合があります。)

※10月19日(土)午前10時から新入生向け、キャンパスネットワーク講習会を実習室にて行います。例会および人間学研究会全般についてのお問い合わせは、

Tel: 044-355-3865高橋まで。

【歩きましょう】

○9月20～24日「第20回おくのほそ道を歩く(高岡～金津)」

○10月6～8日「火打山・妙高山登山」

○10月23～26日「雨飾山と塩の道を歩く」

○11月2～4日「日本スリーデーマーチ(埼玉県東松山市)」

○11月22～25日「第21回おくのほそ道を歩く(芦原～木ノ芽峠)」

○12月上旬「仏果山 年忘れ登山」

○12月23日(祝)「第10回汽笛一声ウォーク」

○1月1日「元旦ウォーク」

○1月上旬「新春初歩きハイキング」

来年1月以降も、登山、ハイキング、歴史散歩などを計画中です。このほかに、日帰りハイキングの企画が入る場合があります。歩きましょうについてのお問い合わせは、

Tel: 0468-41-7937 大出

Tel: 0466-37-0191 鈴木 まで。

神奈川放友会

北朝鮮拉致事件の悲劇的な結末と巨人西武の優勝と悲喜交々のニュースが続きました。神奈川放友会は神奈川学習センター 所属の学生団体で、会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助するサークル活動を行っています。

行楽と研修を兼ねた旅行

一泊研修(大学本部・Museum等)

旅にこう会(行楽・名所旧跡等)

学習履歴表に依る情報交換

会員相互の研究発表

清風亭ネットの会

学習履歴表と清風亭ネットの会は放友会の目玉商品として会員から高い評価を得ています。

放友会ではE-Mail Address取得者が半数を超え事務局からの連絡手段として郵便、電話/Faxに加えてE-Mailも採用しておりE-Mail Address取得を推奨し9月に初心者向け講習を行いました。

清風亭ネットの会では高度なインターネット、E-Mail、ワープロ、エクセル等々を勉強し亦チャットを楽しんでいます。

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を拡げたい方の入会をお待ちしています。

行事予定(10月～3月)

10月6日(日)新会員勧誘、歓迎会

10月20日(日)10月旅にこう会

11月24日(日)月例会情報交換研究発表

12月8日(日)忘年会

10月水曜パソコン講習(Wordで年賀状)

11月水曜パソコン講習(E-Mailの勉強)

2月23日(日)2月旅にこう会

3月16日(日)例会 翌年度の計画等

清風亭ネットの会は別途スケジュールで活動しています。

照会/入会申込先

〒251-0025

藤沢市鶴沼石上1-13-13-506

芝崎 芳和

Tel/Fax 0466-25-0090

E-Mail shibasun@gray.plala.or.jp

神奈川放友会：活動報告

一泊研修旅行記

今年もまた、放友会の一大行事の一泊研修旅行がやってきた。9月14日と15日の2日間、幕張の放送大学本部とその周辺をじっくり見て廻り見聞を深める計画だ。

いつもそうであるが、旅の支度は楽しいもの、幹事の岸下さん、世話人の芝崎さんの案内を手にし、着替えから学生証まで1点1点バックに入れ、ああこれで準備が整ったと思って、また確認する。きっと何か忘れ物があるものだから。

吉田会長からこの旅行記をとの依頼を受けたものの、肝心のメモとボールペンが入っていない。今度はしっかりと入れた。

・9/14（土）曇り

予定の11時半前には東海道線⑦⑧番ホームの相鉄口階段付近にもう全員集まっている。今日はこれから2時半に幕張の恐竜博をみて午後8時から放送大学セミナーハウスで研修する日程で、男性13名、女性3名、現地直行1名の旅である。

全員がお揃いの目印のリボンを袖につけ、先頭の人が放友会の特製の三角のペナントを高く掲げ、皆集まったのだから電車来たら乗ろうということで予定より15分早く乗った。

土曜の昼前ではあったが、品川を過ぎるころには全員着席できた。東京駅で長い長い歩道エスカレーターを何度も乗り、地下深く下りるエスカレーターでぐんぐんと下りて京葉線に乗換、12時50分に海浜幕張駅に着いた。駅には恐らく皆我々と同じ恐竜博へ行く子供連れの親子、カップル、グループ団体の人で混雑し、恐竜博に入るに2時間待ちと何度もアナウンスが流れていた。

2時に恐竜博の会場の幕張メッセ国際展示場9ホールに集合と決まり、自由行動となった。1時を過ぎた時間ではあったが食堂は何処でも満席、食を求めて皆お腹と財布に相談し散らばっていった。

国際展示場9ホールは依然何重もの長蛇の列、少しずつ人が動き出し2時間待ちが90分、60分となってきた。世界最大の恐竜博2002は朝日新聞社とNHK、NHKプロモーションの主催で7/19から9/22まで会期、今日からの3連休で大行列ができる程の人出となっている。今回の放友会のメンバーには背の高い人が多く、徳永さんがペナントを持って先導してくれたので混雑した会場でもはぐれずに大変助かりました。

恐竜はその巨大さがゆえに、又、現在では全く存在しない絶滅した動物であるがゆえに人々は魅せられ、会場に入ると、もうここ

はジュラシックパーク、1億6000万年もの間この地上に君臨した恐竜が現われると、子供たちのみならず私たちも思わず立ちすくむ程の迫力であった。

又アメリカのワイオミング州の恐竜化石の宝庫のハウ発掘現場での発掘の様子、そして最新の発掘の成果に驚きを隠せなかった。

会場での最大の圧巻はジュラ紀の森に悠然と立つ、世界最大の恐竜の一つ「セイモサウルス」の全身の復元骨格だ。全長35mを超え、この恐竜博のため世界ではじめて公開され、同時にこの森に中国、アフリカ、南アメリカで発見された巨大恐竜が10数体も会場狭しと一堂に会し、ここではもう驚きの声とフラッシュの光が絶えなかった。あのセイモスの頭に上りたいという子供の声も聞かえた。

恐竜は6500万年前に地球上から忽然と消えてしまった。なぜ絶滅したのか、その原因と考えられる巨大隕石衝突の謎を会場出口付近で迫力あるのCG映像をモーションピクチャーの大スクリーンに映りだされていた。

興奮醒めやまぬ会場を出て、これから今夜の宿泊場所の大学本部のセミナーハウスへ向かう。京葉線と東関東自動車道の高架を潜り、しばらく歩くとイトーヨーカドーの大きな駐車場が見えるともう放送大学の本部の前だ。歩いて30分弱、5時半に着いた。

セミナーハウスは3階建て、年末年始以外は年中無休のバス、トイレ完備の30の居室、六泊以内なら連続して泊まれる。一人一泊、冷暖房期間でも1110円の料金の格安さ。附属図書館に入るには学生証の磁気面をスライドするだけの簡単さと蔵書の豊富さ、加えてゆったりとした間取りには驚きの連続であった。単位認定の時期が近づいたらセミナーハウスに泊まりこみ、図書館や視聴覚室で勉強するのも悪くはないと思った。

午後7時50分からは1階の54人収容できる研修室で奥隅さんの「室町文化と婆娑羅大名」の研究発表だ。婆娑羅（ばさら）とは室町時代に流行った言葉で幕府の禁制にもかかわらず「婆娑羅の風潮はやむことがなかった。ばさらとは派手にふるまう、過度の贅沢を意味する言葉で、人目をひきつける目立つ振舞、さらに体制を否定する思想、運動の展開などもばさら的な行為でもあった。婆娑羅大名の一人として佐々木道誉が名高い。奥隅さんが研究の一環として道誉の菩提がある滋賀県甲良町迄足を運び、図書館やお寺で地方文化を研究している人に取材している努力には頭が下がる思いであった。そういえば吉川英治の私本太平記の婆娑羅帖には「僧は僧衣を外し、武者は烏帽子をかなぐり除けて

肌をぬぎ、公卿も冠を床において、飲む、歌う、舞うの徹底的な快楽をつくすのだった。---白拍子や遊女など二十余人も来て興をそえ、加茂川の瀬に朝月のかたむくころまで---」の記述があった。私もいずれ其の日が来るであろう卒論の申請から研究までの一連の流れには大変参考になった。

奥隅さんが録画したフジ子・ヘミングが奏でるクラシックピアノに疲れを癒し、芝崎さんの「山勘、一か八か、ちゃんぽ」をご存知ですかで習い、吉田会長の対象性の数学に脳を刺激する2時間半の研修であった。

研修終了後、3階の談話室いっぱい集まりビールと乾き物で話しがラーメンからミサイルまでさらにB29の東京爆撃と次々と弾み話題が途切れることがなかった。

・15日（日）曇り

旅の朝は早い。妙な名前を付けてある補食室で6時30分に、昨晚セブンイレブンで買ってきたおにぎりや弁当、サンドを、芝崎さんが用意してくれた缶ｽﾌｨﾝｸﾞ汁で朝の食事をした。

7時50分に部屋の鍵を返し、管理さんにハウス前で記念写真のシャッターを押してもらった。

二日目の予定は学内を散策し中央線乗り継いで江戸東京たてもの園のコースだ。

大学本部の管理棟にすーと立寄り、見学後、大学に別れを告げ、総武線の幕張駅に向かった。御茶ノ水で中央線に乗換え武蔵小金井駅には10時20分に着き、駅からバスで10分の江戸東京たてもの園へ。今日は敬老の日、65歳以上は無料開放、一般は400円、放大学生は学割の320円の入園料、幸先のよい日だ。

ここは自然に恵まれた都立小金井公園にある野外の博物館である。江戸時代の農家から昭和初期の看板建築までいろいろな建物が復元されているのです。横浜本牧の三溪園で原三溪が大名の別荘、茶室、庭園、壁画など日本の古美術、古建築を移したのと対照的である。

園内に入ると早速ボランティアの説明を聞き、田園調布の大川邸に向かう。関東大震災後の大正14年に田園調布に建てられた木造1階建、床面積が99.36mm、私は家の中に入らなかったが、外から覗いても部屋には昭和初期の生活の様子が窺えた。たてもの園のハイライトは三井八郎右衛門邸である。三井一族の総領家の邸宅で、財閥解体を経た昭和27年西麻布に建築した邸宅である。京都、大磯ほか三井家関連する施設から建築部材、石、植物が集められ邸内は財閥が繁栄していた頃の男爵三井家の勢いが見られた。襖・障子・杉戸には名のあ

る画家の描いた花鳥風月が描かれ、書院、茶室、シャンデリア、土蔵、庭園には往時の三井家がしのばれる。

その他、農家の吉野家、同心組頭の家、写真館をはじめ七軒訪れた。これらの建物を見ることにより生活文化の変遷を辿ることができた。お昼の集合場所は高橋是清邸、7度の大蔵大臣、商務大臣、総理大臣であり昭和11年の2・26事件で暗殺された人物で、ここで30年あまり過ごした。今は一階の居室は食堂として営業しており、ここで昼食を兼ねて連絡会合し、自由解散となった。たても園にはこの他銭湯の子宝湯、居酒屋、荒物屋、醤油店、交番などなど下町中通りが再現されており、これから行ってみようという声も聞こえた。

昨日の14日の午後8時の研修に入る前の自己紹介のとき、鈴木信之さんが夕食時に交わした会話が心に響きその思いを短歌にして詠われた。
「夕方にひとときの食事かわし道の深さに啓発を感じぬ」

私は今回の研修ははじめての参加であったが、己の蒙を啓く機会と交流の場を設けて下さった岸下さん、芝崎さん、吉田さん、奥隅さん、そして13名の同行してくれた皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

岡本興和記

放送大学同窓会

10月にハイキングを、11月に同窓生による体験発表会、来年2月には今年の2月に開催し好評だった映画鑑賞会を予定しています。なお、上記詳細は会報『波濤』24号(9月発行)をご覧ください。今後の行事への多数の参加をお待ちしております。

1. 披露山公園・浪子不動 渚ウォークへの誘い

今回は海と山が満喫できる逗子へ小ハイキングしてみませんか

披露山公園からは 逗子市街地、江ノ島、相模湾の海岸線、富士山、伊豆大島などが一望できる展望豊かな景勝地(かながわ景勝50選)です。また園内には、猿や鳥類なども飼育されています。

浪子不動ハイキングコースは、山のしほり水の小川のある、雑木林の中を20分程の森林浴を楽しみながら下ると、海の中に徳富蘆花の小説にちなんだ不如帰の碑が見えてきます。運動靴など、歩きやすい靴で、さあ、歩きましょう！

日時：平成14年10月20日(日) 小雨決行
集合場所：JR 逗子駅 東口改札 13:00
集合 13:10 出発
コース：JR逗子駅～披露山公園～浪子不動ハイキングコース(4.5k程)

2. 放送大学同窓生による体験発表

昨年に続き、同窓生による体験発表をいたします。

今回は、片岡久雄氏と坪井英子氏にお願いしました。

片岡氏は、さかのぼること46年前に南極観測船「宗谷」に乗船していた貴重な体験を、坪井氏には、元心臓外科病棟看護婦として多くの患者を看取り、現在は葬送支援アドバイザーとして数多くの葬儀の立ち合いをしてきた中で体験なさったことをお話くださいます。

友人、知人をお誘いの上、是非、是非お出掛け下さい。

日時：平成14年11月10日(日)
13時～16時

場所：神奈川学習センター 第8講義室
演題：以下のとおり

片岡久雄氏

「第一次南極観測隊の輸送業務について」

- (1)：南極観測の概要
- (2)：砕氷船『宗谷』の概要
- (3)：南極地域への航海概要

坪井英子氏

「ご自分の死に方、考えたことがありますか？」

- (1)：葬儀にまつわる話
- (2)：遺言を残すことの大切さ
～後に残された人へ～
- (3)：ご自分の葬儀を考えてください

3. 映画のお話と鑑賞会のお知らせ

昨年好評でしたので、第2回目を行います。来年2月のことですので是非手帳にメモなどなさって忘れずに来て下さいね。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

- (1) お話：「映画の世界」
～楽しいですね映画は！～

懐かしい名画や最近の映画から人生模様あれこれをお話下さいます。

- (2) 映画鑑賞：『クラディエーター』2000年 アメリカ映画
監督 巨匠 リドリー・スコット
主演 ラッセル・クロウ

- (3) 日時 場所：
平成15年2月23日(日)
13:00～16:30

学習センター第8講義室
講師：横浜映画研究会会員
西浦久晏氏(放大同窓生)

このページについてのお問合せはすべて

佐々木順子(045-472-6482)

大花幸子 (0468-66-2195) まで

UA神奈川学習センター なつだより編集部

発行者：神代和俊

編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、村山、石川、坂井

・坂戸五葉さんには、紅葉の秋、食欲の秋などのイラストを描いていただきました。ご協力に感謝いたします。

ホームページもご覧ください。
<http://u-air.net/kanagawa/>

次回、神奈川学習センター「ふゆ」だよりの特集テーマは、「研修旅行に参加して」と「新年に想うこと」です。学生の方々の原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて12月上旬までに、E-Mailで、あるいはセンター窓口までお寄せください。「放送大学についてのエッセイ」も常時受け付けます。また、「書評」「読後感想文」も400字程度でお願いいたします。奮ってご応募ください。

